

今月のテーマ



タラ(荷縄)

本田優子(札幌大学教授)

アイヌ文化のことをもっともっと話したい!
本田優子と村木美幸の二人が、その魅力を交代で
執筆するソンコ(=お便り)形式のエッセイです。



ところで、荷物の運搬の仕方についていろいろあります
よね。アフリカや東南アジアの人々は頭の上に物を乗
せて運ぶ頭上運搬の伝統が知られています。アイヌの
人たちもタリペを額にあてて担ぐので、頭を利用して
いることになります。それに対して、本州を中心に日
本列島の多くはリュックサック(バックパック)型で、肩

の時期、北海道のあちこちで巨大なフキが収穫
されます。ある記録映像に、道東のアイヌのお
ばあさんが立派なフキをたくさん鎌で刈った後、運び出
す姿が残されていますが、その時おばあさんが使ってい
たのがタラでした。タラとは荷物を背負う時に使う縄の
こと。でも、単なる縄ではなく、四メートルくらいの長さの編
み紐で、中央部には幅六〜七センチ
のタリペと呼ばれる部分があり
ます。タリペには黒や白の丈夫
な木綿糸を編み込んで模様が
施されたものが多く、タラで荷
物をしばった後、タリペを額に
当てて荷物を背中に担ぐので
す。タラの材料は木灰で煮たシ
ナノキの内皮が一般的ですが、特
に丈夫に作らないといけない男
性用のタラには、さらに強度の
あるツルウメモドキやイラクサ
の繊維を使ったとされます。



イラスト/山丸ケニ

タラが子育てに使われるシーンがあります。昔の女性は
赤ちゃんを山や畑に連れて行って仕事をしたものです
が、その時、三脚に吊したシンタ(ゆりかご)のまわりに
タラを二巻きします。霊力が強いとされるタラが結界を
作り、魔物の侵入を防いでくれるのだそうです。やっぱ
りタラは単なる荷物運びの縄じゃないですね。

タラは、赤ちゃんをおんぶする
時にも使われました。イエオマフ
といい、「それで子どもをかわい
がるもの」という意味です。荷
物を運ぶタラと形は同じですが
短めで、途中に横棒を結びつけ
着物の内側に入れた赤ちゃんを
腰掛けさせるのです。もう一つ、
頃おつしやっていました。アイヌ
と同じような背負い方は日本
列島周縁部の島々で確認され
るようです。

で背負います。たとえば東北地方ではアイヌ文化との
共通点がたくさん見られますが、そこで使われている
バンドリ(背負子)もリュックサック型です。萱野茂先
生は、額にかけて背負っていると、突然クマに出会った
ような時でも首を後ろに振りするだけで背中の荷物
が後ろに落ち、身軽になることができるので、山で生き



次回のテーマは「ウポポイ5周年」
村木美幸(アイヌ民族文化財団副理事長)が
担当します。



ウポポイ

NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

JR白老駅から徒歩約10分



ウポポイPRキャラクター
「トラレップン」

■本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
■村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団副理事長。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
■山丸ケニ(やままるけに):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団職員。ウポポイでアイヌ語体験プログラムを担当する。



イランカラテ
「こんにちほ」からはじめよう。